

不登校により学びにアクセスしない子どもたち その2

子どもが不登校になると、まずは親は子どもを学校に行かせようと学校や相談機関を調べて相談に行く。しかし、いろんな所に相談に行き解決策が得られなければ、再登校を諦める。いや、学校に行かせようすること自体が間違っている、あるいは、画一教育の学校に我が子は馴染まない、学びの多様化を是認し、フリースクール等に行く。ところが、子どもは、学校に行きたくないから学びにアクセスしない。

子どもが学びにアクセスしない理由を考えるに、

- ①学校に行こうとするが、行けない。
- ②学ぶ意欲がない。
- ③学ぶ必要性を感じない。
- ④不安症や起立性障害で行けない。
- ⑤友達と関わりづらい（④と関連するが）。
- ⑥親と同様、相談に行ったが、解決策が得られず、再登校を諦めている。
- ⑦学校とは別の学びの場、居場所に行く。

が考えられる。

この中で②と③、⑥については、「不登校により学びにアクセスしない子どもたち その1」で、その対応について述べさせて頂いた。また、⑦は「学びにアクセスしているので、本テーマからは外す。加えて、④は医療的対応になるので、除外する。

残る項目のうち、①に対しては、私達はカウンセリングで対応することだと考える。本人と面談し、科学的に分析すれば、その素因が分かる。詳しくは、本稿「不登校・引きこもりの素因」の項で述べたので、割愛する。

そうなると、最後の課題は、⑤のこうした私達にもアクセスしない子ども達へのアウトリーチである。

不登校に限ると、必ずその情報を得られるのは学校である。従ってその課題とは、学校のスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーに、養護教諭、不登校支援員のアウトリーチであるという結論に至る。

私は過去3回内閣府主催の相談員の初級・中級・上級研修（各6日間）を受けさせて頂いたが、上級研修はやはりその「アウトリーチ」の研修だった。

私達の立場からは、その1で述べたように、保護者の皆さん、不登校の解決を諦めている子どもたちやその保護者の皆さんのが、不登校は必ず解決するという認識を普及させるべく、さまざまな不登校の子どもたちがそれを乗り越え、社会的自立を果たした姿を描き続ける。